

山口県 1 万人会員増強運動の中間報告及び今後の重点目標について

高齢化の進行に伴い、本県では高齢化率が 32.0%、約 3 人に 1 人が高齢者となり、高齢者が高齢者を支える地域（まち）づくりが非常に重要となっています。

このような状況の中、老人クラブは地域社会を基盤として、これまで友愛活動や健康づくりを通じて、支援を必要とする高齢者の見守りや生活支援、介護予防に取り組んできており、地域の生活支援・介護予防の担い手として大きな期待が寄せられています。

しかしながら、本県における老人クラブの会員数は、全国の状況と同様に、これまでの活動活性化や加入促進の取組にも関わらず、年々減少傾向にあります。

この減少傾向に歯止めをかけるべく、全老連が提唱し、全国の老人クラブが総力を結集して取り組んでいる「全国 100 万人会員増強運動」において、山口県では「山口県 1 万人会員増強運動」を平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 年間で取り組んでおり、今年度は中間の年にあたります。

そこで、これまで 2 年余りの取組を振り返り、さらなる「山口県 1 万人会員増強運動」を展開するため、これから残り 2 年間の重点目標を提示します。

「山口県 1 万人会員増強運動」目標数値とは

県内全体では、平成 25 年度末の会員数 (64,324 人) × 3% × 5 年間 = 9,640 人を増強する。
単位クラブでは、年間 2 人の増員を図る。

I 市町老連の取組状況 ～市町老連活動実態調査の集計結果から～

1 会員増強運動のための会議や委員会の設置

設置している	12 老連 (63.2%)
設置していない	7 老連 (36.8%)

⇒ 会議や委員会の設置は、会員増強運動に推進において単位老人クラブ活動の実情把握に効果が出ているようです。

1-① 会議や委員会の開催頻度

～年 2 回	3 老連 (25.0%)
年 3～4 回	4 老連 (33.4%)
年 5～6 回	1 老連 (8.3%)
年 7 回～	3 老連 (25.0%)
随時	1 老連 (8.3%)

⇒ 平均開催頻度は、4.8 回。

2 会員増強のための数値目標（平成28年度分）

設定している	9老連（47.4%）
設定していない	10老連（52.6%）

⇒ 前年度からの会員増を達成している市町老連では、数値目標を設定しており、特に単位クラブごとの目標設定が効果を上げているようです。

2-① 数値目標の内容（主な回答）

- * 1単位クラブあたり年1名以上の増員
- * 自然減少を差し引いて、会員増加数が1名以上
- * 単位クラブの会員数によって設定
- * 新規会員加入促進目標3%

3 会員増強のための取組内容（複数回答あり）

非会員への訪問による入会勧誘	9老連（47.4%）
行事や活動への参加呼びかけでの入会勧誘	15老連（78.9%）
単位クラブの新設	6老連（31.6%）
休会している単位クラブの再開（復活）	7老連（36.8%）
単位クラブの解散防止	16老連（84.2%）
自治会・町内会に協力を依頼	5老連（26.3%）
老人クラブの広報誌でのPR	11老連（57.9%）
行政の広報誌でのPR	6老連（31.6%）
チラシ・パンフレットの作成によるPR	6老連（31.6%）
女性部会・女性委員会での取組	7老連（36.8%）
その他	5老連（26.3%）

⇒ 「単位クラブの解散防止」16老連（84.2%）、「行事や活動への参加呼びかけでの入会勧誘」15老連（78.9%）、「老人クラブの広報誌でのPR」11老連（57.9%）の取組が多くなっています。

3-① 効果の高かった会員増強のための取組内容（上位5項目）

行事や活動への参加呼びかけでの入会勧誘	14老連（73.4%）
単位クラブの解散防止	9老連（47.4%）
非会員への訪問による入会勧誘	8老連（42.1%）
休会している単位クラブの再開（復活）	4老連（21.1%）
老人クラブの広報誌でのPR	4老連（21.1%）

4 会員増強につながった事例（主な内容）

- * グラウンド・ゴルフ、フォークダンスへの参加呼びかけを通じて勧誘した。
- * 市報に老人クラブ参加呼びかけの記事を掲載したところ。本人や家族からの問い合わせがあり、単位クラブの会長に取り次いだ。
- * 老人クラブのなかった地域に公民館や地区の福祉部に協力を仰ぎ、老人クラブを設置した。
- * 自治会で65歳を超えた方は自動的に会員になることを決定した。
- * 越境型の単位クラブを結成した。
- * 共通の趣味や運動を通じて勧誘した。
- * 定年後、帰郷された方への声かけ。

5 会員増強を進める中での課題（主な内容）

- * 若い世代が入会を敬遠する。
- * 後継者のリーダーがいない。
- * 入会すると役を持たされると断られる。
- * 高齢者でも仕事をされている人が多い。
- * 退職後は自由でいたいと考える人が多い。
- * 趣味や同好会に人が流れ、老人クラブへの関心が薄れている。

II これまでの取組の振り返り

これまでの2年余りの活動を振り返ると、会員増強委員会の設置、会員増強報奨制度の創設をはじめ、市町老連を挙げた前向きな取組、会員の意識向上により、新設クラブ、復活（再開）クラブによる会員増や声かけ運動等により会員の減少数が緩やかになった市町老連があるなどの効果が現れています。

しかしながら、会員の減少数が若干緩やかになっているものの、減少に歯止めがかかっていない状況です。その原因としては、会員増強運動により新たに獲得した会員以上に、会員の退会、クラブの休会や解散により減少する会員数が多くなっていることが考えられ、退会、休会・解散の防止が重要な課題と言えます。

これまでの活動を振り返ると、会員増強運動は、老人クラブ活動を魅力的なものに活性化し、地域に発信することが求められています。今後も特定の役員に負担が偏らないよう配慮し、市町老連での目標を会員一人一人が共有し、それぞれの立場で老人クラブ活動を振り返るとともに、その魅力をPRするなど継続的、計画的に運動に取り組むことが必要です。

【山口県全体での増強目標の進捗状況】

平成30年度末目標数	平成27年度末会員数	目標達成までの会員増強数
74,294人	58,062人	16,232人

【各市町での会員数の推移及び増強目標の進捗状況】

市町名	増強目標の進捗状況			会員数の推移							
	平成25年 3月末	平成30年度末 目標会員数	目標までの 増強会員数	平成26年 3月末	前年度からの増減 (H26-H25)	平成27年 3月末	前年度からの増減 (H27-H26)	平成28年 3月末	前年度からの増減 (H28-H27)	増減 (H28-H25)	
下関市	6,811	7,867	2,552	6,172	-639 ↘	5,765	-407 ↘	5,315	-450 ↘	-1,496	
宇部市	5,255	6,070	1,693	5,153	-102 ↘	4,836	-317 ↘	4,377	-459 ↘	-878	
山口市	9,311	10,754	2,639	8,912	-399 ↘	8,439	-473 ↘	8,115	-324 ↘	-1,196	
萩市	4,604	5,318	1,339	4,446	-158 ↘	4,234	-212 ↘	3,979	-255 ↘	-625	
防府市	4,832	5,581	1,535	4,615	-217 ↘	4,308	-307 ↘	4,046	-262 ↘	-786	
下松市	1,807	2,087	487	1,732	-75 ↘	1,734	2 ↗	1,600	-134 ↘	-207	
岩国市	7,347	8,486	2,088	7,073	-274 ↘	6,740	-333 ↘	6,398	-342 ↘	-949	
光市	3,770	4,354	564	3,770	0 →	3,750	-20 ↘	3,790	40 ↗	20	
長門市	2,070	2,391	690	1,923	-147 ↘	1,863	-60 ↘	1,701	-162 ↘	-369	
柳井市	1,777	2,052	660	1,592	-185 ↘	1,494	-98 ↘	1,392	-102 ↘	-385	
美祿市	1,548	1,788	483	1,473	-75 ↘	1,343	-130 ↘	1,305	-38 ↘	-243	
周南市	5,756	6,648	1,294	5,512	-244 ↘	5,258	-254 ↘	5,354	96 ↗	-402	
山陽小野田市	2,577	2,976	1,076	2,181	-396 ↘	2,135	-46 ↘	1,900	-235 ↘	-677	
周防大島町	4,240	4,897	1,132	4,099	-141 ↘	3,866	-233 ↘	3,765	-101 ↘	-475	
和木町	490	566	100	490	0 →	462	-28 ↘	466	4 ↗	-24	
上関町	336	388	168	313	-23 ↘	296	-17 ↘	220	-76 ↘	-116	
田布施町	930	1,074	325	930	0 →	768	-162 ↘	749	-19 ↘	-181	
平生町	591	683	186	551	-40 ↘	528	-23 ↘	497	-31 ↘	-94	
阿武町	272	314	80	257	-15 ↘	243	-14 ↘	234	-9 ↘	-38	
計	64,324	74,294	16,232	61,194	-3,130 ↘	58,062	-3,132 ↘	55,203	-2,859 ↘	-9,121	

※目標会員数は「平成25年3月末 会員数」×3%×5か年の設定となっている。

「増減欄」の矢印 ↗：前年度より増加 →：前年度を維持 ↘：前年度の減少数より減少幅が緩やか ↙：前年度より減少

Ⅲ 今後の「山口県1万人会員増強運動」における重点目標

市町老連の取組

重点目標1 解散クラブの防止を！

単位クラブが会員を増やしても、解散するクラブがあれば、一度に30人、50人という会員が失われてしまいます。クラブの解散は大変影響力があります。

そのためには、市町老連（支部老連）は組織的に解散防止に取り組み、単位老人クラブが孤立し、問題を抱え込み解散することを防止するため、地区・校区老連の協力を得ながら、単位老人クラブの運営状況を把握し、会長・リーダーの相談支援、会長・リーダー後継者の発掘や育成支援、単位老人クラブ同士の交流等の支援を図ることが大切です。また、非会員の高齢者が参加できる行事等を実施し、新たな会員獲得を図りましょう。

一方、単位老人クラブの会長・リーダーは、自分のクラブに解散の予兆を感じたら、周りに相談をしましょう。近隣クラブは、解散しそうなクラブを察知し、話を聞き、手を差し伸べる取り組みにつなげることが必要です。

それでも防ぐことができずに解散するクラブがある場合は、会員が孤立することなく、生きがいと健康を維持するため、近隣クラブの活動に参加できるようにしたり、クラブの合併、越境型クラブの創設を検討したりしましょう。

重点目標2 未結成地域に新規クラブの立ち上げを！

クラブの解散や新興住宅地の造成により、老人クラブが存在しない地域が出てきています。市町老連（支部老連）は、市町行政、市町社会福祉協議会、自治会・町内会（連合会）等の関係機関・団体と連携し、そのような地域に新規クラブを立ち上げること、休会クラブを復活（再開）させることを地区・校区老連、近隣クラブと考えましょう。

しかしながら、新規クラブの立ち上げや休会クラブの復活（再開）は、個人の熱意だけでは困難な場合が多いようです。関係者の理解と地域の協力が不可欠ですので、市町老連として組織的に、根気よく取り組むことが必要です。

単位クラブの取組

重点目標 3

単位クラブは、まずはあと1人、そして2人以上の加入増を！

「平成26年度老人クラブ実態調査報告」（全老連）によると1クラブあたりの1年間の会員数増減は0.6人減少（入会者3.3人、逝去者2.0人、退会者1.9人）となっており、入会する人がいても、逝去や退会する人数が上回っている結果になっています。1つ1つの単位クラブが『会員を減らさない』ことが大切になります。会員1人の純増で現状維持、2名の純増で会員増となります。まずは、まずはあと1人、そして2人以上の純増をめざしましょう。

そのためには、会員全体で未加入者への声かけや個別訪問による入会勧誘、お試し会員（特別会員等の名称）の創設、会員が高齢になっても参加しやすいクラブづくりを行い、会員の維持、純増に取り組みましょう。